

3 DIHSの早期診断

Early diagnosis of DIHS

浅田秀夫

ASADA Hideo

奈良県立医科大学皮膚科学教授

Summary

薬剤性過敏症症候群(DIHS)は、限られた薬剤により遅発性に発症し、発熱、多臓器障害、ヒトヘルペスウイルス再活性化を伴う重症型薬疹のひとつである。本症では、初期の対応がその後の経過を左右するため、早期診断が必要不可欠である。しかし実際には、問診や臨床所見のみから、DIHSを早期に診断するのは困難なことが多い。近年、DIHSの発症初期に、Th2型ケモカインのTARCの血清中濃度が著明に上昇することが明らかとなった。一方、スティーヴンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症、紅斑丘疹型薬疹では、軽度の上昇にとどまることから、TARCがDIHSの早期診断のバイオマーカーとして注目されている。

HHV-6(human herpesvirus 6)

ヘルペスウイルス科のウイルスで、生後6カ月~2歳にほぼ全員が感染し、初感染では突発性発疹を生じる。その後、体内に潜伏感染するが、種々の免疫変調をきっかけに再活性化する。皮膚科領域では、薬剤性過敏症症候群や移植片対宿主病とHHV-6再活性化との関連性が知られている。

TARC(thymus and activation-regulated chemokine)

TARC(CCL17)はCCケモカインのひとつで、その受容体のCCR4はTh2細胞、制御性T細胞などに発現しており、TARCはこれらのT細胞サブセットの動員に重要な役割を果たしている。アトピー性皮膚炎の疾患活動性マーカーとして広く用いられている。

KEY WORDS

薬剤性過敏症症候群(DIHS) / HHV-6 / バイオマーカー / TARC / ケモカイン